

# 徳島子どもと教育

徳島県教職員の会  
〒771-0017徳島市川内町鶴島115  
黄金ビル 徳島労連事務所内  
TEL 088-665-6644  
FAX 088-665-2117  
携帯 090-2891-5189  
eメール dp12287892@pf.lolipop.jp  
2018年9月12日 No.230



## 目の前で見えた！子どもの発達、成長！

### ～2018 夏のひまわり学校in「山人の里」～



今年の夏のひまわり学校は、開催に向けて3月から月に1回、計4回の「子ども会議」を開き、子どもたちが主体的に活動内容を決めました。校舎、体育館、運動場を丸ごと使って、2日間「ハッピーな学校にチャレンジ」しました。

1日目 (土)	開校式	弁当	スタンプラリー & 風船のお部屋	逃走中	バーベ キュー	きもだめし
------------	-----	----	---------------------	-----	------------	-------

2日目 (日)	室内 オリンピック大会	どんぶ り作り	感想文 閉校式	※太字は子どもが活動 内容を決めた。
------------	----------------	------------	------------	-----------------------

### 主体的に動き出した「子ども会議」のメンバー

毎回10人あまりの子どもたちが集まり、まずは豚丼やドライカレー等の昼ご飯を作る。昼休みには「松ぼっくりの投げつけ合い」や「かんけり」等の自由遊び。会議は、前半約40分、後半1時間ほど行う。このような「子ども会議」を、月1回「プチひまわり」と位置づけて実施した。ひまわり学校でやりたいことを出してもらうとなんと30個以上。初めはどうなるかと思ったが、何とか折り合いをつけながら5つの活動にしばっていった。「子ども会議」に参加していた2年生のたった一人の意見であった「風船のお部屋」も、子どもたちは取り入れた。回を重ねる毎に、子どもたち一人一人は自分なりの考えを出し、持ち味を発揮するようになった。M子さん(6年)はいつの間にかクラスの友達6人も子ども会議に誘っていた。「スタンプラリー&風船のお部屋」を中心になって計画したMさんは、「去年の夏のひまわり学校は先生が考えたのをしたけど、今年は私達が考えたのをしたから、去年の倍、とっても楽しかったです。」と、後の感想に書いている。

### 自己肯定感や自信を持っていく姿

コミュニケーションを取るのが苦手なA君(4年)は、1回目の子ども会議で自分のやりたいことを各自が書いて発表するとき、書いていた紙をくしゃくしゃにしてうずくまってしまい、話すことができなかった。2回目の子ども会議、お互いのやりたいことを聞き合った。この時、A君の提案を聞いた子どもたちから「面白い、やりたい。」との声。A君はそれがとても嬉しかったのだそう。後日、A君のお母さんが「(Aは)その後から

自分も皆の話をよく聞くようになり、意見を自分の言葉で言えるようになりました。」と教えてくださった。第4回子ども会議では、A君は緻密な原案を用意してみんなに提案してくれた。

当日、大会後の表彰式でA君は、兄弟で作った手作りの金メダル銀メダルをかけていった。この時、同時に彼の身体の方には自信や自己肯定感のメダルがかかっていっているように思えた。「ぼくたちの考えた(室内オリンピック大会の)内容がもりあがったので、とてもうれしかったです。」この感想にこめられている思いは大きい。



### 安心感に包まれると新しい自分が生まれてくる

「肝試し」の原案づくりに関わったY子さん(5年)。去年は、なかなかなじめずにいる彼女を見て「途中で帰りたい思いであった」とお母さんは言われていた。今年2回子ども会議に参加したが、同世代の子どもの中に交わっていけるか、大人達はやはり不安であった。しかし、次から次へとアイデアが浮かぶ彼女は一緒に担当した仲間と面白い工夫を導入し、いろいろな賞状を用意するなどしてその役割を果たしていった。当日、肝試しの表彰式でおぼけ役をした父母らが集合してみんなの前に並んでくれた。この時、Yさんがおぼけ一人一人にインタビューを始めた。これは全く予定していなかったのだが、そのユーモラスな話し方、小気味のよいツッコミ、臨機応変に進めていく頼もしい姿に、「えっ、Yちゃんてこんな才能があったの?」と、スタッフ達はびっくり。もしかしたらこの時、彼女自身「新しい自分」を発見できたのかもしれない。承認空間の中で、本来こんな自分になりたいと思っていたことを実現できたのではないだろうか。

### 学校づくりも子育ても、子どもと教師、父母らの共同で

「逃走中」でハンター役になったり、「肝試し」でおぼけ役をしたり、「室内オリンピック」で玉入れを子どもたちと競い合ったり。大人たちも子どもたちに本気でぶつかっていった。学校づくりは主体的に関われば関わるほど、大人も子どもも面白い。自己肯定感が高まるのは大人も同じだ。保護者同士の励まし合い支え合いなど、その一つ一つが共同の子育てにつながっている。

後日開かれた実行委員会で、閉校式で1年生のI君がとった行動が話題になった。ユニークな、しかし一見進行の妨げともとれるI君の行動は何を意味していたのか。実行委員会では、それは「同じ人がしゃべっているよ。交替して！ぼくたちもマイクを持ちたい。」との声だったのでと読み取り、I君は次の課題を提起してくれたと確認し合った。

### 子どもたちに「幸せに生きる力」を！

今年の夏のひまわり学校では、「みんなで話し合って要求を実現すること」、「自分の言ったことやしたことが認められ、ほめられること」、そして「聞いてくれる仲間とゆとりをもって見守ってくれる大人がいること」等が、子どもたちの成長、発達にとって非常に大切であることがよく分かりました。

生き生きと輝く上級生の姿を見て、小さい学年の子から「私も考えるところから参加したい!」との声が届いています。「幸せに生きる力」をつけ、主権者としてしっかりと歩めるよう、これからも子どもたちの支援を続けていきたいものです。(投稿・小池清)



# 教職員の会 総会開催

徳島県教職員の会の総会が、8月18日、ふれあい健康館で開催されました。総会では、岡田代表世話人の挨拶、来賓の山本徳島労連議長の連帯の挨拶がありました。

提出された議案は、活発な討論の後、全会一致で採択されました。



## 採択された総括・方針 (一部を紹介)

- ◇問題のある教育出版小学校道徳教科書の県内採択はゼロ。昨年、県教委に要請した教科書展示会場でのコピーサービスが一部会場で実現。
- ◇中止を求めている年2回実施のステップアップテストが、年1回に。今後も、学力テストとステップアップテストの中止を求めていく。
- ◇教職員の会の調査で、臨時教員に対するパワハラ・セクハラを確認。管理職を対象にしたパワハラ・セクハラ研修の実施を求めるとともに、会の相談窓口を設置。
- ◇他団体と協力して教育署名に取り組み、少人数学級等の教育条件整備の実現を。
- ◇会の作成した「長時間過密労働の抜本的な解決を求める10の提言」をもとに、勤務条件の改善に取り組む。
- ◇代替教員不足問題ともかかわっている給与の頭打ち問題などの臨時教員の待遇改善に取り組む。
- ◇特別支援学校の過大・過密化の解消に向け、全国的な運動と連帯して取り組む。
- ◇「戦争をする国づくり」を許さないために、改憲反対の3000万署名に取り組む。
- ◇「クレスコを読む会」や民主的サークル・団体等と協力して学習会を開催。
- ◇年12回の機関紙を発行。「ひまわり学校の取り組み」の投稿を得た。今後、SNSのさらなる活用を進める。
- ◇徳島市ブロック有志は、長期休業中に、職場の実情や課題などを意見交換。職場で権利を守る取り組みを進めた。

## 参加者の発言 (一部を紹介)

- カウンセラー・図書館司書・ソーシャルワーカー・ALT・通級などの必要性と条件整備の必要性。 ○ひまわり学校で子ども親も教員も成長。
- 部活の教育的な意義と勤務条件の関係をすり合わせ、調整する必要性。
- ブロックでの会員間の結びつきや職場で権利を守る取り組みの大切さ。
- 「クレスコ」の読み合わせやサークルでの学習会に若い教員などを誘って、より多くの参加者で学びたい。 ○若い人への働きかけにはSNSの活用が必要。
- 勤務条件の改善には、教職員の数を増やしたり、ステップアップテストなどの不要なものをなくしたりすることが大切。まずは、ステップ…を学校裁量に。

☆総会の返信ハガキ「近況・ご意見」欄に、たくさんの方が記入してくださっていました。みなさんのメッセージに、総会参加者一同、勇気づけられました。

ありがとうございました。

残暑や台風にも負けず、共に頑張っていきましょう。



## 来年度から使用する中学校道徳教科書をめぐる

### 県民不在の採択結果公表問題

全国各地の中学校道徳教科書の採択結果が、7月段階から報道されています。こうしたなか徳島県教委には、市町村教委などから8月末には採択結果の報告があり、すでに県教委は文科省に集約結果を報告しています。ところが、9月7日に電話で問い合わせたところ県教委は、「9月11日の県教委の定例会に報告した後に公表する」と述べました。情報公開の流れに反する異常な県教委の対応を厳しく批判するなか、「改善していきたい」との回答を得ました。なお、教職員の会が独自調査した県内6採択地区では、問題の「日本教科書」の採択はゼロでした。

## 進路保障を求める四国キャラバンを実施

9月の高校生就職採用試験開始を前にした8月27日、教職員の会・徳島労連・四国各県の教職員組合や全日本教職員組合の代表者などの12名が、徳島県や県教委、県経営者協会などの経済4団体に対して、高校生の修学保障・進路保障等を求める要請行動を行いました。(8/28付の徳島新聞が、要請行動について報道)



徳島県教委に要請



徳島県に要請



経営者団体に要請

### 県が労働問題で啓発資料を作成・配布へ

「働く権利について」学ぶ資料を県独自で作成することを長年にわたって要請していましたが、今年度、「県がパンフを作成して公立高校3年生に配布し、各高校に学ぶ機会を設定することを依頼する」との回答がありました。参加者から歓迎する発言があり、「困ったときに労働組合に相談することも記してほしい」などの要請がありました。

### 障害者雇用水増し問題で謝罪

障害者手帳を確認せず、障害者雇用促進法に基づく雇用率に算入していた問題について県教委は、参加者の問いに対して、「ガイドラインの理解不足であり、重く受け止め、反省している。心よりお詫びし、今後、こういうことがないよう、厳格に対応したい」との回答がありました。

